



年 組 名前

道新ワークシート

故障前に異常キャッチ！

目視点検 年600時間削減

麒麟ビール（東京）は3日、北海道千歳工場（千歳市）に設備の異常を検知できる新たなシステムを導入したと発表した。震動や温度を検知するセンサーを製造ラインに取り付け、故障の予兆をつかむ。これまでは従業員が目視で点検していたため、年間600時

麒麟千歳工場に新センサー



故障の予兆を検知できるシステムを導入した麒麟ビール北海道千歳工場の製造ライン

（麒麟ビール提供）

間の作業時間の削減になる。2023年以降、他の8工場にも順次設置する。缶にビールを詰めたり、6缶パックに包装したりする製造ラインの一部にセンサーを導入。昨年1月から今年4月にかけてデータを蓄積することで、故障前に異常が分かるようになった。従来は稼働前に毎日1時間かけて点検していたが、従業員の熟練度で精度に差があり、課題だった。今後4300万円をかけて、千歳工場の缶製造ライン全てに導入していく。醸造や樽商品の製造過程にも取り入れる方針。

主に道内向けビールを製造する千歳工場は、他工場と比べて製造量が少ない。稼働日程を調整しやすいため、試験導入に適していたという。

（米田真梨子）

2021年6月4日（金）朝刊 全道版 10ページ（記事は再編集しています）

①麒麟ビール北海道千歳（ちとせ）工場が導入（どうにゆう）した新たなシステムとは、どのようなものですか。

②それまで人が行っていた点検を、センサーでできるようになると、どのような良いことがあると考えますか。